

5- ローカルプログラム（1年生・2年生）

（1）目的

地域でのボランティアなど社会参与型の体験学習を通して地域課題を把握し、その解決に向けて、生徒自身が世田谷区や地域社会との連携を図りながら、アクションプランの策定・実施を目標とする社会貢献活動型探究学習を行う。解決するアクションを実施する。地域やコミュニティで具体的に役割を担える人材に必要な主体性・協調性・責任感・ホスピタリティなどの人間性を高める。地域での活動とアカデミックな学習、グローバルな考え方や課題意識を連動させ、多面的な視野をもって地域やグローバル社会で貢献できる力を育む。

（2）概要

サービスマーケティングプログラムを受講した全学年生徒を対象に総合的な探究の時間及びロングホームルーム、課外活動を使って2年間継続で実施する。

1年次の前期は「世田谷研究」として世田谷区の魅力や課題を知るためのフィールドワークを実施。地域の魅力や課題について、自らの関心に基づいてテーマを設定し、地域実地調査やヒアリングを通じて、課題研究の手法・スキルを育成するとともに、後期からの提案型探究(サービスマーケティング)に応用していきけるよう、地域と自己を結び付け、地域理解を促進するための地域探究基礎学習として位置づける。

1年次後期は「サービスマーケティングプログラム」をスタートし、ボランティア活動などを通じて地域課題の発見・把握と現状の調査・把握を行い、自分たちが解決すべき課題を検討・具体化する活動となる。コンソーシアムの協力のもとでボランティア活動先・訪問調査先の開拓を進めた。2年次は地域が抱える社会課題の解決に向けて、自ら社会参与アクションやプランを策定し、その実施を通じて社会課題を解決するプログラムの実施段階に入る。生徒にはグローバルな視点、地域での実践を取り入れた活動を推奨し、広い視野で考え、地域と良好な関係を構築しながら地域のための行動できるようなプログラムの開発を目指す。

サービスマーケティングのテーマは各学年生徒の希望をもとに4～5の大テーマを設定し、活動先は世田谷区産業振興公社や地域協働学習実施支援員との協力のもとで、産官学のコンソーシアムを中心に提供できるようにし、地域に根差した課題解決に繋がるようにしている。

1年生：サービスマーケティング[世田谷研究]

（1）概要

地域探究の基礎を学びながら、地域理解を深める活動（地域の魅力や課題を知る地域研究）に取り組む。私学である本校は、世田谷区外からの通学者が多く、世田谷区を地元として意識する生徒が少ないため、「地元」としての世田谷区の魅力や課題を発見する活動を行い、後期のサービスマーケティングの基礎として位置づける。

初めは座学で世田谷区について知り、自分の興味関心とつなげるワークを実施したのち、自分たちで興味関心のあるテーマを決めて2カ所以上を訪れるようにし、計画書を作成した。ツアー実施後は地域の課題に

ついて考えるワークを実施しながら、活動を振り返り、報告書にまとめた。まとめた報告書は、後期のサービスマーケティングのテーマ決めにも使えるよう、生徒が閲覧できるようにした。

■活動日程・内容


| 日時 | 活動内容 |
|-------|----------------------|
| 4月20日 | 「地域魅力発見のためのマッピングワーク」 |
| 4月27日 | 魅力発見ツアーの説明・グループ分け |
| 5月18日 | ツアー企画・アポイント →計画書提出 |
| ～6月8日 | 計画書が提出できたグループからツアー実施 |
| 6月29日 | ツアー結果の発表と共有 |
| 7月13日 | →「地域課題を見つけるワーク」を実施 |

■おもな調査活動先


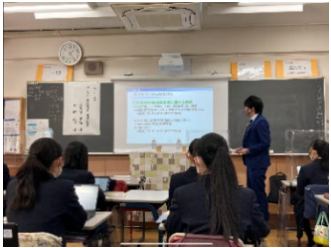
| テーマ | 訪問先の例(2021年度) | 生徒延人数 |
|-------|------------------------------------|-------|
| 介護 | ホスピア三軒茶屋(高齢者介護施設) | 5名 |
| 子ども教育 | 世田谷区子ども家庭支援課、Pista子ども食堂三軒茶屋、世田谷保育園 | 50名 |
| 街づくり | エコプラザ用賀、駒沢オリンピック公園、世田谷区みどり33推進担当部 | 95名 |
| 商店街 | 下北沢一番街商店街、ブルーランジェリーポヌール(製パン) | 22名 |
| 動物愛護 | 東京都動物愛護相談センター、犬猫譲渡センター保護犬猫カフェ | 12名 |

(2) 主な取組み：グループごとの活動

〈子ども教育〉

| | |
|---------------------------------|---|
| 講 演 「世田谷区の子ども支援の取り組みと高校生にできること」 | |
| 実施日時 | 2021年10月26日(火)5時間目 |
| 講師・場所 | 青木千穂氏(世田谷区子ども・若者部 子ども家庭課子ども・子育て支援担当係長) 椎名和美氏(世田谷区子ども・若者部 子ども家庭課子ども・子育て支援担当主事) ・昭和女子大学附属昭和高等学校(大教室) |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数：34名 ・資料：パワーポイントのスライドをプリントアウトしたもの 【講演内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区の子育て支援と高校生にできること ・おでかけひろばでのボランティアを通して学んだことについて  |


〈インフラ・防犯・環境〉

| 講 演 「世田谷区の住み良い『まち』づくり(環境・交通・防犯・観光)」 | |
|-------------------------------------|--|
| 実施日時 | 2021年10月26日(火)5時間目 |
| 講師・場所 | 大久保 舜海氏(世田谷区環境政策部環境計画課) 石綿 紅里氏(世田谷区環境政策部環境計画課) ・昭和女子大学附属昭和高等学校(4C) |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・視聴生徒数:28名 ・資料:パワーポイントのスライドをプリントアウトしたもの 【講演内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区のポイ捨て、路上喫煙、落書き対策について(大久保舜海氏) ・世田谷区の気候危機と再エネ、省エネの取り組みについて(石綿紅里氏) <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> |

〈食・店〉

| 講 演 「世田谷区の環境問題について(ゴミ・フードロス)」 | |
|-------------------------------|---|
| 実施日時 | 2021年10月26日(火)5時間目 |
| 講師・場所 | 太田和 信也氏(世田谷区清掃・リサイクル部事業課) 仲田 啓太氏(世田谷区清掃・リサイクル部事業課) ・昭和女子大学附属昭和高等学校(4B) |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・視聴生徒数:21名 ・資料:パワーポイントのスライドをプリントアウトしたもの 【講演内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題と食品ロスについて |

〈動物愛護〉

| 講 演 「東京都(世田谷区)の動物愛護の取り組みと高校生にできること」 | |
|-------------------------------------|---|
| 実施日時 | 2021年10月26日(火)5時間目 |
| 講師・場所 | 小林 和弘氏(東京都動物愛護相談センター業務担当) ・昭和女子大学附属昭和高等学校(4D) |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・視聴生徒数:11名 ・資料:パワーポイントのスライドをプリントアウトしたもの 【講演内容】 <ul style="list-style-type: none"> ・東京都動物愛護相談センターの活動内容と高校生にできる動物愛護について <div style="text-align: center;">  </div> |

〈中間報告会〉

| | |
|------------|--|
| 実施日時 | 2021年3月1日(火) 5・6時間目 |
| 発表者 ・場所 | <ol style="list-style-type: none"> 子ども教育 4班・6班 食・店 1班 インフラ・防犯・環境 1班・4班 動物愛護 1班 ・昭和女子大学附属昭和高等学校(大教室・4A・4B・4C・4D) |
| 内容 | <p>・2年次の活動にむけて、1年次の調査で発見した真の課題についての中間報告を行った。</p> <p>・大教室にて発表者と4Gのオーディエンスには対面で発表し、4A～DのクラスにはZOOMにて中継で発表を行った。質疑も会場と、ZOOM教室からも出て、活発な議論ができた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 子ども教育 <ul style="list-style-type: none"> ・4班「GoGo!!子育てワールド～子育て支援の課題～」 ・6班「子ども食堂って知ってる??」 食・店 <ul style="list-style-type: none"> ・1班「みんなで協力!フードドライブ!」 インフラ・防犯・環境 <ul style="list-style-type: none"> ・1班「治安の悪さと犯罪の関係性について」 ・4班「ファッションと環境問題」 動物愛護 <ul style="list-style-type: none"> ・1班「学びから繋げる動物愛護の輪」 |



(3) 成果と課題

〈成果〉

◆伸ばすことができた点

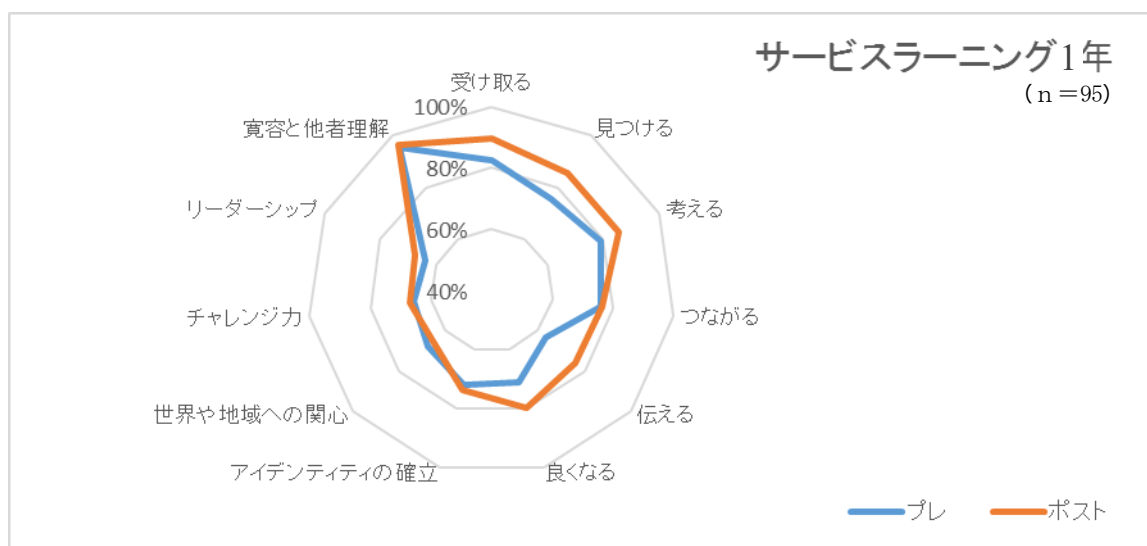
- 地域の課題を発見していくことで、日常的に利用する交通機関、通学路ですれちがう子どもや高齢者、社会福祉の支援が必要な人々を、地域や行政、民間の視点で見つめるなど、多様な価値観が存在することを認識できるようになった。
- 地域課題の発見のために、地域住民や行政、民間企業への訪問・アポイント・インタビューの活動を通して、座学では身につけることのできない電話のかけ方、メール文章の書き方、訪問時の礼儀などのソーシャルスキルやコミュニケーションスキルを身につけることができた。
- インターネットや文献調査で事前に得た知識や情報と、フィールドワークや訪問体験を通して肌で感じたことを交えて地域への貢献のあり方を考えたことで、等身大の、地に足のついた提案ができた。
- 自ら主体的に発見した課題を他のグループに発表・共有することで、論理的に説明する力を伸ばすことや、他グループとの協働する可能性を見出すことができた。
- ボランティア活動や既存の団体への参加となると、コロナ禍において活動の幅が狭まってしまうなか

で、実地調査や自主的な清掃活動をはじめとしたフィールドワーク活動も推奨していくことで、自分たちの目で見、調査をし、都度、課題設定のし直しをしていくことで真の課題とは何かと探究する姿勢を身につけることができた。

◆各活動での具体的な取組みとその成果

- a. 三軒茶屋駅から学校までの通学路を清掃する作業を通して、治安維持のための方策や、落ちていたゴミの分析から、どのような人が利用しているのかさらに魅力ある街にするための方策を考えることで行政の立場から街を見つめることができた。
- b. 老人ホームに出向き、コロナ禍によってできなくなったサービスがあることや、感染対策で費用が増加していることなどの問題を理解し、サービスの補填をするために自分たちが何をできるのかを考えることができた。
- c. 子ども食堂やワンオペ育児をはじめとする子育ての孤立化を支援する世田谷区の保育施設の現状を講演会や子ども食堂への訪問を通して理解し、実情を広く拡散するために SNS を活用する案を企画することができた。
- d. 世田谷区のファーマーズマーケットへのインタビューを通して農地面積や農業従事者の減少の問題を理解することができた。
- e. 動物愛護相談センターを訪問し、動物の保護・譲渡の様子や流れを理解した。また、保護犬カフェやドッグランでのインタビュー、保護犬・猫の認知度アンケート、Pawer.代表大西結衣氏に「動物福祉」のあり方をうかがうなど、意欲的に活動ができた。

≪アンケート結果≫



≪分析≫

- a. 「寛容と他者理解」はプレ・ポストともに高水準となった。推移がないため、サービスラーニングの成果にはあたらないが、「つながる」項目である他者との協働作業も変化がないことから、もとより「他者理解」と「協働」する力は持っていたと考えられる。
- b. 大きく変化したことは、「伝える」項目である。地域の方と連絡をとったり、他グループに成果を発表する

機会は多くあったため、調査した内容を他者へと発信する論理的な力がこの一年を通してついた。発表に関しては、プレ発表、発表、そして、選抜したグループは全体にむけて発表をしているため、多いグループは3度に渡って発表を行っている。いずれも課題が明確になっていき、プレゼンテーション能力も向上していった。それが自信となった結果であると考えられる。

- c. 低水準のまま、変化がないのが「アイデンティティの確立」や「世界や地域への関心」「チャレンジ力」「リーダーシップ」である。「課題」でも述べるが、「地域」にフォーカスするあまり、「グローバル」な問題との接続が少なかった。一部、ファッションの大量生産・大量廃棄による環境問題をテーマとするグループがグローバルな問題としてのファッションの環境問題を、世田谷区の取り組みから考えていくものがあったが、グローバルな課題をいかにローカルな視点から解決していけるかといった視野を今後は培っていかねばならない。

《課題》

◆今年度の学年・グループの活動全体に関して

- a. 「地域課題」についての探究ではあったものの、グローバルな問題とローカルの関係性の気づきももう少しあるとよかった。
- b. コロナ禍で予定していた訪問先に行くことができなくなるなど、計画通りに進まないことが多かった。ZOOMでのオンラインインタビュー等の実施はできたが、やはり「見て・感じる」という体験が得られなかった。今年度も「活動」の解釈を柔軟にとり、フィールドワークレベルも「活動」として認めていったことで、積極的に地域の課題を見つけるようになったように、コロナ禍での「活動」をどのようなものとしていくのかさらに考えていく必要がある。
- c. 生徒たちが探してくる活動先は、過去に本校からすでに連絡をとったことがあるところであることが多く、先方から「他にも連絡を受けた」という声が少なからずあった。学年内でのアポイント先の共有はもちろん、他学年との共有や過去にどこのどなたにどのような連絡をしたことがあるのかを先方の失礼にならないようにリスト化しておく必要がある。
- d. 後期にサービスマーケティングの活動が本格化したが、生徒たちが設定するテーマは、「高校生でもできること」としては大きすぎるものが多かった。その意味で、産業振興公社の協力のもとで世田谷区役所の方々に来校していただいて世田谷区の課題と取り組みについての概要を説明していただけたことでより具体的なイメージを得ることができた。しかし、実際問題「高校生にできること」はテーマによっては難しく、どこに相談すればよいのかわからないグループも多かった。そのため、テーマが定まってきた段階で、再度相談会のようなものが開けると訪問の活動の足掛かりができるものとする。
- e. 講演会において生徒からたくさんの質問はしたが、質問の仕方により工夫があるとよかった。今後のインタビュー活動に向けて、どのような聞き方をすれば有用な回答を引き出せるかを指導する必要がある。

2年生：サービスラーニング

(1) 概要

1年次に一人ひとりが興味ある大テーマを選び、同じ大テーマを選んだ生徒たちの中で自由に4～6名でグループを編成し、大テーマに基づくグループテーマを設定し2年間の活動を行った。

今年度(2年次)は、1年次に情報収集した結果をもとに、コロナ禍において高校生にできるアクションは何かを考え、その実践に取り組んだ。

〈テーマ設定とグループ編成・生徒人数〉

- ①地域活性・街づくり…………… 3グループ 15名
- ②子ども教育…………… 11グループ 51名
- ③多文化共生・グローバル…………… 2グループ 9名
- ④その他(動物愛護・食品ロス・海洋汚染) …… 4グループ 18名

(2) 主な取組み

〈地域活性・街づくり〉

| グループテーマ | ご協力いただいた 団体・企業等 | 活動内容 |
|--------------|---|--|
| ①街おこし in 桜新町 | ・三軒茶屋銀座商店街振興組合 ・桜新町商店街事務所 | ・SNS上での桜新町商店街のお店の宣伝 |
| ②三軒茶屋の街づくり | ・三軒茶屋銀座商店街振興組合 ・公益財団法人世田谷区産業振興 公社地域活性・観光課 | ・三軒茶屋清掃活動 ・世田谷スーパーエールモザイクアート制作 ・ポイ捨て防止ポスター制作 |
| ③防犯意識の向上 | ・明大前商店街振興組合 | ・防犯動画の制作 ・防犯川柳ポスターの作成、掲示 |

◆活動の様子



①SNSでケーキの宣伝



②三軒茶屋の清掃活



③防犯川柳ポスター

〈子ども教育〉

| グループテーマ | ご協力いただいた 団体・企業等 | 活動内容 |
|-----------------------|--|------------------------------------|
| SNS に潜む危険 | ・世田谷区立二子玉川小学校 | ・SNS に対する意識調査 ・SNS の危険性を伝える動画制作 |
| 子ども食堂と食品ロス | ・アイムライズ株式会社 ・子ども食堂 バル虹 ・こつな夜カフェ | ・配布するお弁当準備の手伝い ・お弁当配布の手伝い |
| 高校生ができる 子どもへの支援 | ・ドナルド・マクドナルド・ ハウスせたがやハウス | ・本の回収および回収した本の寄贈 |
| 子ども食堂の支援 | ・子ども食堂 バル虹 ・昭和小学校アフタースクール | ・おやつや食材の袋詰め ・手作りおもちゃの寄付 |
| 3つの子どものこ食 | ・こども食堂 みんなでごはん | ・栄養素トランプの製作 |
| 子どもの好き嫌いによる栄養不足 | ・世田谷区立池尻児童館 | ・食べ物カルタの製作 |
| 子どもの体力 | ・昭和女子大学附属昭和こども園 | ・遊びの紹介動画の製作 ・午後の時間に園児と遊ぶ活動 |
| 怪我をゼロに！ 子どもの安全！ | ・世田谷区役所 | ・公園内における子供にとって危険な場所の 実地調査 |
| 守ろう！ 子どもの安全！ | ・仁慈保幼稚園 | ・紙芝居、ポスターの製作 ・保育園での紙芝居の読み聞かせ |
| 児童養護施設にいる 子供たちへの支援 | ・東京育成園 | ・未使用タオルの回収および寄贈 |
| 広がる子育て情報 | ・おでかけひろば SHIP ・いば小児科 ・三軒茶屋ペルソナレディースク リニック ・メリーレディースクリニック | ・子育て情報を伝えるポスターの製作 ・世田谷区内の病院での掲示 |

◆活動の様子



SNSの危険性を伝える動画



お弁当準備の手伝い



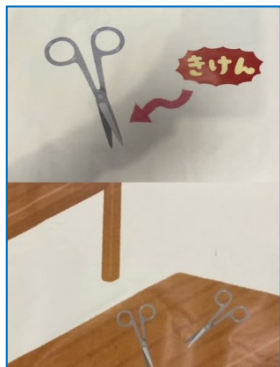
回収した本の寄贈



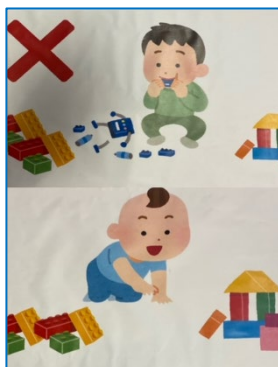
手作りのおもちゃ



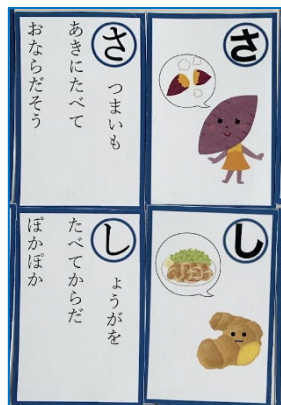
栄養素トランプ



けが防止の園児向けの紙芝居



園児と遊ぶ



食べ物カルタ

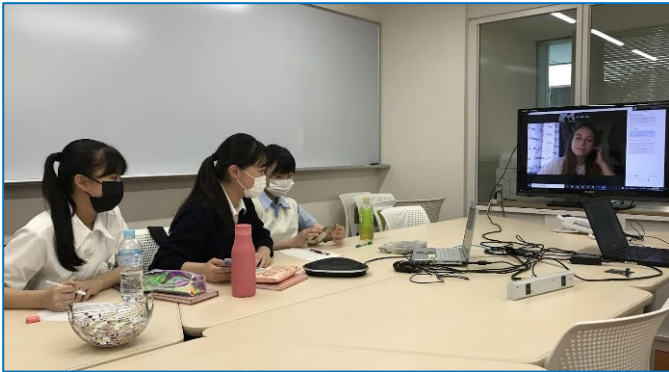


本校内で回収した未使用のタオル



病院内に展示したポスター

〈多文化共生・グローバル〉

| グループテーマ | ご協力いただいた 団体・企業等 | 活動内容 |
|---|--------------------|--|
| 外国人の住みやすい 街づくり | ・甘味処 甘寛 | ・英語版メニュー作り |
| 差別や偏見のない 世界を作る | ・昭和女子大学国際交流センター | ・昭和女子大学の留学生へのインタビュー (ZOOM) ・紙芝居の製作 |
| <p>◆活動の様子</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid red; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p style="text-align: center;">～MENU～</p> <ul style="list-style-type: none"> •Soft Warabi mochi ¥1100 •kanmi set ¥1100 Warabi-starch dumplings •Zennzai Sweet bean soup ¥950 •Oshiruko Sweet red bean soup with grilled rice cake ¥950 •Isobe Yaki Grilled rice cake with nori seaweed ¥850 •Anmitsu Powdered green tea, brown sugar, agar jelly, whole sweet beans, rice flour dumplings, fruit ¥880 •Matcha set Powdered green tea and dessert ¥800 •Coffee set Coffee and dessert ¥780 •Ice cream ¥500 Assorted flavors </div>  </div> <p style="text-align: center;">留學生へのインタビュー（ZOOM）</p> <p style="text-align: center;">甘味処 英語版メニュー</p> | | |

〈その他（動物愛護・食品ロス・海洋ごみ問題）〉

| グループテーマ | ご協力いただいた 団体・企業等 | 活動内容 |
|---------------------------|--|---|
| 保護犬・保護猫 を救え！ | ・NPO 法人みなしご救助隊 犬猫譲渡センター東京支部 | ・募金活動の手伝い |
| 広めよう！ 動物愛護の未来 | ・NPO 法人みなしご救助隊 犬猫譲渡センター東京支部 ・昭和女子大学附属昭和小学校 | ・動物用ゲージ清掃ボランティア ・募金活動の手伝い ・ポスター製作 |
| 世田谷区の 食品ロスの実態 | ・プラットホーム世田谷 ・世田谷区役所 清掃リサイクル部事業課 | ・フードドライブの手伝い ・食品ロスの現状に関する動画製作 |
| プラスチックご みによる海洋汚 染問題 | ・世田谷区役所 清掃リサイクル部事業課 ・学生ボランティア企画団体 NUTS | ・海洋ゴミ問題のポスター製作 ・江ノ島海岸清掃 |

◆活動の様子



募金活動の様子を SNS で発信



動物用ゲージの清掃



食材の仕分けの手伝い



江の島海岸清掃

〈1年次・2年次の活動でご協力いただいた団体・企業等〉

地域との協働を目指し、世田谷区役所、世田谷区産業振興公社をはじめ、世田谷区を中心とした多くの団体や企業の方々にご協力いただきながら活動を進めることができた。

| 大テーマ | グループテーマ | ご協力いただいた団体・企業等 |
|-----------------|-----------------------|---|
| 地域活性・街づくり | 街おこし in 桜新町 | 三軒茶屋銀座商店街振興組合 桜新町商店街事務所 |
| | 三軒茶屋の街づくり | 公益財団法人 世田谷区産業振興公社 地域活性・観光課 |
| | 防犯意識の向上 | 明大前商店街振興組合 |
| 子ども教育 | SNS に潜む危険 | 世田谷区立二子玉川小学校 |
| | 子ども食堂と食品ロス | アイムライズ株式会社 子ども食堂 バル虹 こつな夜カフェ |
| | 高校生ができる子どもへの支援 | せたがや子育てネット ドナルド・マクドナルド・ハウスせたがやハウス |
| | 子ども食堂の支援 | せたがや子育てネット 昭和女子大学附属昭和小学校 アフタースクール 子ども食堂 バル虹 |
| | 3つの子どものこ食 | みんなでごはん |
| | 子どもの好き嫌いによる栄養不足 | 世田谷区立池尻児童館 |
| | 子どもの体力 | せたがや子育てネット 昭和女子大学附属昭和こども園 |
| | 怪我をゼロに！子どもの安全！ | せたがや子育てネット |
| | 守ろう！子どもの安全！ | 仁慈保幼稚園 せたがや子育てネット |
| | 児童養護施設にいる 子供たちへの支援 | せたがや子育てネット 東京育成園 |
| | 広がる子育て情報 | せたがや子育てネット おでかけひろば SHIP いば小児科 三軒茶屋ベルソナレディースクリニック メリーレディースクリニック |
| 多文化共生・グローバル | 外国人の住みやすい街づくり | 甘味処 甘寛 下北沢 世田谷区 生活文化政策部 国際課 |
| | 差別や偏見のない世界を作る | 昭和女子大学国際交流センター 世田谷区 生活文化政策部 国際課 |
| その他（動物愛護） | 保護犬・保護猫を救え！ | NPO 法人みなしご救助隊犬猫譲渡センター 東京支部 |
| | 広めよう！動物愛護の未来 | NPO 法人みなしご救助隊犬猫譲渡センター 東京支部 昭和女子大学附属昭和小学校 |
| その他（食品ロス） | 世田谷区の食品ロスの実態 | 世田谷区 社会福祉協議会 ぷらっとホーム世田谷 |
| その他 （海洋ゴミ問題） | プラスチックごみによる 海洋汚染問題 | 世田谷区 環境政策部 環境保全課 学生ボランティア企画団体 NUTS 三菱製紙株式会社 機能商品事業部 産業資材商品部 リライト・新商品グループ |

◆Glocal High School Meetings 2022 への参加

・2022 年全国高等学校グローバル探究オンライン発表会

・開催日時：2022 年 1 月 29 日（土）10:00～12:00

グローバル型地域協働推進校の生徒が日頃取り組んでいる「グローバルな視点をもって地域課題の解決に挑む提言や実践」を日本語や英語で発表・共有する場を設け、ふだん直接交流する機会が少ない全国の高校生が一堂に会して新たな気付きを得たり、ネットワークを構築したりして、今後のグローバル探究の深化や意欲の向上を図ることを目的とした発表会。日本語発表部門に、大テーマ「子ども教育」の中の「SNS に潜む危険」をテーマとしたグループが、サービスラーニング全 20 グループの代表として参加した。また、協力校として発表会当日のブレイクアウトの際の司会進行役を担当し、円滑に発表会を進めることができた。

◆朝日新聞社の取材

「総合的な探究の時間」における探究活動を通して、生徒たちがどのように成長しているのかにフォーカスした取材の依頼があり、Glocal High School Meetings 2022 に参加したグループの代表生徒 2 名がその取材を受けた。2022 年 2 月 20 日（日）の朝日新聞朝刊の「教育 学ぶ」の紙面の「いま子どもたちは～探究学習で得たもの～」のシリーズの記事として掲載された。

◆MY PROJECT AWARD 2021 東京 Summit（オンライン）への参加

・開催日時：2022 年 2 月 6 日（日）10:00～17:00

マイプロジェクトアワードは探究学習・マイプロジェクトを実行した全国の高校生が一堂に会し、活動の発表・参加者との対話を通して次の一歩を考える、高校生たちの交流の場である。20 グループがエントリーし、16 グループが書類審査を通過して、東京 Summit（地域ごとの発表会）に参加し、発表を行った。

（3）成果と課題

《成果》

◆総合探究で育てるスキルと行動目標に関する生徒の意識の向上

a.6 つのスキルと 5 つの行動目標

・6 つのスキル：受け取る力、見つける力、考える力、つながる力、伝える力、より良くなる力

・5 つの行動目標：アイデンティティの確立、世界や地域への関心、チャレンジ力、リーダーシップ、
寛容と他者理解

b.アンケート調査

・2 年間のサービスラーニングの活動を通して、（1）①のスキルと行動目標に対する生徒の意識がどのように変容したのかを探るために、4 回のアンケート調査を実施した。

①1 年次プレアンケート

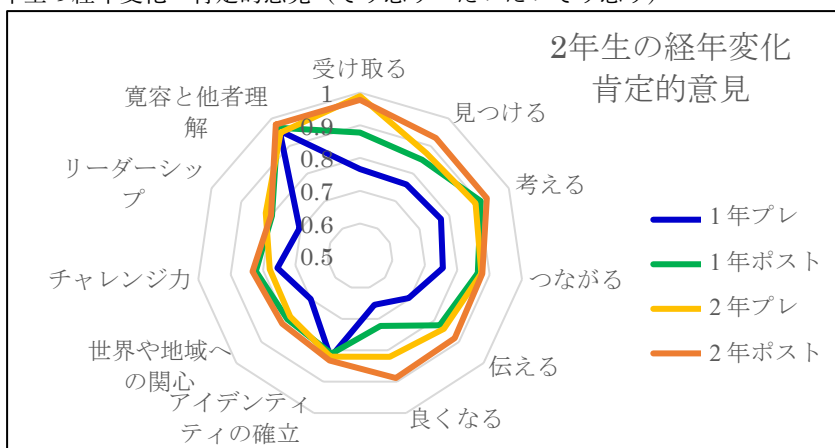
②1 年次ポストアンケート

③2 年次プレアンケート

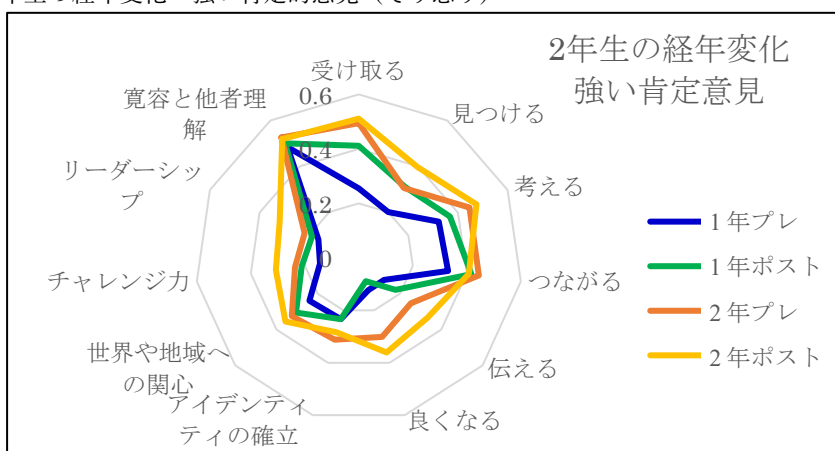
④2 年次ポストアンケート

《アンケート結果》

①2年生の経年変化 肯定的意見（そう思う・だいたいそう思う）



②2年生の経年変化 強い肯定的意見（そう思う）



《分析》

- ・33項目の質問項目の回答をスキルと行動目標の11の要素に分類し、その結果を下のグラフにまとめた。活動開始時から比較すると、グラフが内側から外側に広がっていることがわかる。生徒一人ひとりが興味関心を持つテーマに主体的に取り組み、地域が抱える課題とは何か、自分たちにできる社会貢献は何かを考えながら取り組むことにより、これらのスキルや行動目標に対する意識を向上させることができたのではないかと考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大を受けて、学外での活動が大きく制限されてしまったことで、一層工夫が求められたこともプラスに影響した要因の一つであると考えます。
- ・活動を2年間継続することにより、本校が総合探究において育てたい6つのスキルと5つの行動目標を全体的に向上させることができたことが、サービスラーニングの活動の大きな成果であると考えます。

◆プレゼンテーション力の向上

- ・校内におけるオンライン成果発表会や外部が主催するオンラインイベントでの発表を通して、パワーポイントを活用したプレゼンテーションを複数回経験することができた。他校生の発表を視聴することにより、活動内容を知るとともに発表の仕方を学ぶことができた。

- ・発表に向けて事前の打ち合わせやリハーサルを行い、当日、スムーズな発表を行うことができ、プレゼンテーション力の向上を図ることができた。

◆地域（世田谷区）に対する興味関心の向上

- ・生徒の感想から、自分たちの学校がある世田谷区について考えるよい機会となり、社会に向けての意識が向上したことが伺えた。

〈生徒の感想（抜粋）〉

- ・地域活性は簡単にはできることではないけれど、一つ一つの地域の人たちの地道な活動によって桜新町は保たれていることがよくわかった。その活動に関わることができて良い経験になった。
- ・思ったよりも実践的な活動で難しいと感じることが多かったですが、日々地域について考えることが大切だと思いました。
- ・サービスマーケティングをするまでは知ることが出来なかった世田谷区の子供の貧困や世田谷区が抱えている課題を知ることができました。
- ・世田谷区の実態について知ることができ、ボランティア活動をすることで食品廃棄を減らし無駄にしない取り組みを知ることができました。
- ・外国人差別の現状について調べ、改善に向けて様々な観点から働きかけることができた。また、実際に日本に留学中の大学生へのインタビューを通して、国際的な視点で考えることを学ぶことができた。
- ・自分たちで一から現状分析して課題を見つけることで、高校生の私たちでも役に立つことができるということを学ぶことができ自信につながりました。

〈課題〉

- a.新型コロナウイルスの感染拡大により大幅に活動が制限されてしまったため、現場でのボランティア等の活動を十分に行うことができなかった。計画では、現場での活動を行い、振り返りを行って、さらに工夫したアクションを実行する予定だったが、振り返り後のアクションまでつなげることができないグループが多くなってしまった。
- b.思い描いた活動ができなくても、その時の状況に合わせて実行できるアクションを考える柔軟な発想力、小さなアクションでも社会貢献の一つになるのだという考え方、そして、限りある時間の中で実行に移していくための計画性（スピード感）などを生徒・教員が意識しながら取り組んでいく必要がある。
- c. 2年生の取り組んできた活動を下級学年に引き継ぎ、継続性を持たせることができなかった。

コロナの影響で繰り返しの継続的なボランティアが行えず、現2年生が取り組んできた活動を下級学年に引き継ぐだけの活動に至らなかった。

サービスマーケティングにおいて、世田谷区との協働をより深めるために、複数学年で3年を超える継続的な活動にしていくことが重要な課題と考える。

コロナ禍においても工夫をしながら活動を進め、本校内で他学年との情報交換を行い、上級学年の取り組みを下級学年が理解することが重要である。そして、引き継いで活動するグループを募るなどの具体的な方法を検討していく必要がある。

教科横断型授業

今年度は高校1年生で教科横断型の授業を実施した。海外研修が中止となった期間（2021年12月）に設定し、自分の意見を持つ、データ・資料分析、パフォーマンス(発表)など探究スキルの育成に通じるテーマで授業を実施した。

| 番号 | 授業テーマ (タイトル) | 授業内容 | 教科 |
|----|--|--|----------|
| 1 | 数字を読んで小論文を書こう | 論理的な文章を書くために、論拠となる数字を如何に使うか、COP26を取り巻く数字を使いながら環境問題について小論文を書き上げる。 | 国語 数学 |
| 2 | オリンピック・パラリンピックの歴史から2020東京オリンピック・パラリンピックを振り返ろう！ | 今年・過去のオリパラから、戦争や冷戦などが原因となって開催を中止したり、出場を辞めた経緯がある国があったりしたことを学び、オリンピックが政治と絡んでいる事実を学ぶ。また、そのことに関する人々の意見を日本国内だけでなく、海外の意見にも耳を傾けることで、様々な価値観に触れ、自分の意見を見つけ、主張する。 | 公民 英語 |
| 3 | 運動負荷による心拍数の変化と恒常性 | 運動すると心拍数が上昇しますが、しばらくすると元の心拍数に戻っていきます。この授業では5分間の全力疾走前後で心拍数がどのように変化するのか、そして、運動後どのように心拍数が回復していくのかを計測・可視化し体感します。5分間の全力疾走は3回以上行い、複数回のデータを取得し、データの比較も行った。 | 体育 理科 |
| 4 | 江戸時代の文学 | 江戸時代の文学作品を読み、当時の情勢や流行などを分析する。江戸時代まで主流であった崩し字の読み方を練習することで、中世文学作品・資料の原典へのアプローチができるようになる。 | 古典 地歴 |
| 5 | ポエトリーリーディング～英詩の朗読会～ | ビート・ジェネレーションが形成したポエトリーリーディングの文化を再現する。空間をデザインし、英語の詩をどう読むかを考え、意味にとらわれずに「音」や「発声」という楽しみに触れることで、言語文化への理解を深める。英文の朗読あり。人前でのパフォーマンスあり。 | 英語 国語 |
| 6 | ラブレターを読み取られるな！ | インターネットを用いた通信をベースに、第三者が通信を盗み見することが可能な状況で、どうやって送信者と受信者だけが内容を理解できるように通信を行うかを学習し、数学の有用性を感じてもらうことを目的とする。 | 数学 情報 |



ポエトリーリーディング



江戸時代の文学



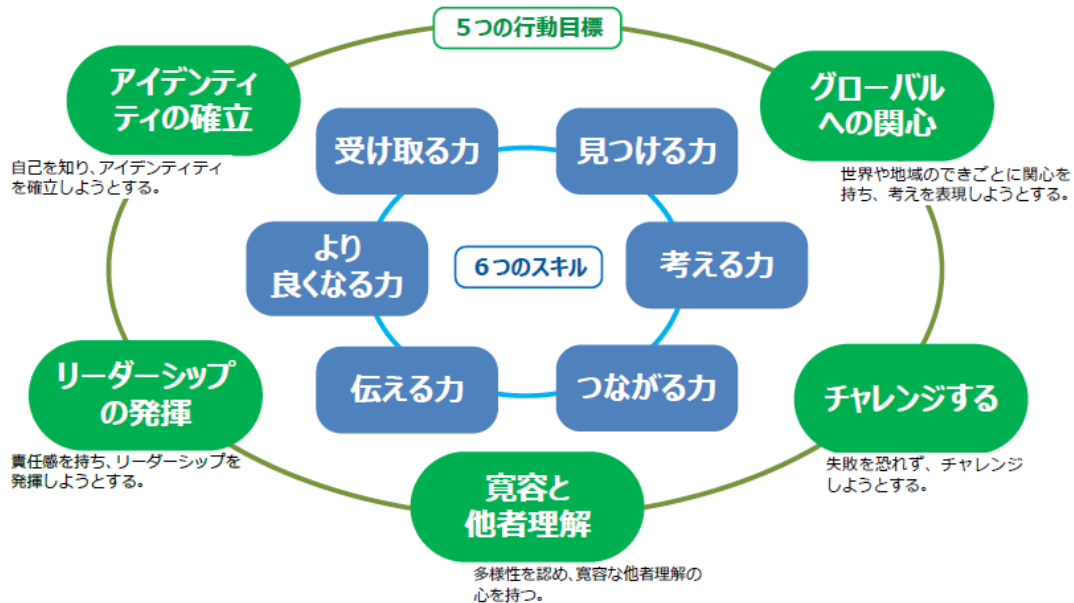
運動負荷による心拍数の変化と恒常性



数字を読んで小論文を書こう

総合探究で育てるスキルと行動目標

毎時間の活動で意識できるようにしましょう



サービスマーケティング 到達ゴール表

時期の終わりに①～④の内容が実施できているか目安にしよう。

| 学年 | 1年 前期 世田谷研究 | 1年 後期 S L (課題発見編) | 2年 S L (地域アクション編) |
|---------|---|--|--|
| 行うこと | 世田谷を知る自主企画ツアー | ボランティアを通して課題を検討し、課題を具体化する。 | 地域でのアクション(2~3回)マイプロジェクト出品。 |
| ゴール | 世田谷区の魅力・課題を知る | テーマの中から自分が解決する課題を見つける | 自分たちができるアクションを実行・振り返り |
| ① 課題設定 | 時期 4月 自分の興味や関心をふまえて、世田谷区の興味あるテーマのうち、1つ以上を選んで、課題や魅力がどのようなものか想定する | 時期 7月～9月 ○○をすれば(○○ができれば)◇◇はもっとよくなる(改善できる)、△△をすれば、□□が実現すると想定する。 (漠然とした課題(仮課題)の想定) | 時期 4月～5月 ◇◇の改善に向けて、高校生の私にできるのは■■だ!というアクション案を考案する。 |
| ② 情報収集 | 5月 想定した課題や魅力を探れる世田谷区の検証先(訪問先)を考える。→ツアーの企画 | 9月～10月 ○○ができるための条件、現時点でできていない要因を想定する。 検証先(ボランティア先)を考える。 | 5月, 7月, 9月 実現のための条件や乗り越える壁、協力すべき人・団体、いつまでに何をするかを想定する。(アクションの計画) |
| ③ 整理分析 | 6月 想定がその通りかどうかを訪問先での調査やインタビューなど地域の人の関わりの中で確認する。 | 10月～12月(1月) ボランティアやインタビューなど地域の人の関わりの中で想定や要因がその通りか確認し、自分たちの設定する問いに反映する。 | 6月, 8月, 10月～11月 プロジェクトを実行! →結果を振り返って改善し、再度実施する。→②に戻る |
| ④ まとめ表現 | 6月後半～7月 想定と調査結果から、地域が抱える課題に対する問いを深める。うまくいっていること、いないこと、必要なこと、必要でないこと、こうだったらいいのにといいことはどんなものかを見つける。 | 1月～2月 調査結果から、◇◇がもっと良くなるために解決しなければいけない「真の課題」は●●だと確認する。 高校生の自分にできることできないことを分析する。 (課題の具体化・焦点化する) | 11月～2月 得られた成果、そこから学んだこと、次にできることは何かをまとめ、外部に発信する。 マイプロジェクトアワードに出品 校内ポスターセッション |

地域の魅力や課題について考えられていれば次に進める。

解決する具体的な課題を見つければ2年の実践にすすめる

総合的な探究の時間 サービスラーニング年間スケジュール

| 月 | 1年 活動の内容 | 2年 活動の内容 |
|-----|--|---|
| 4月 | ・オリエンテーション ・プレアンケート | 【サービスラーニング】 地域アクション編スタート ・アクションの考案 |
| 5月 | 【世田谷研究】 世田谷魅力・課題発見ツアー ・ツアー計画とアポイント(各自で) ・企画書作成・提出 | ・アクションの考案 ・アクション計画・準備 |
| 6月 | ・ツアー実施(6月中に必ず) ・ツアーのまとめ →1枚スライド作成・提出 | ・アクション準備 ・アクション実践(1回目) *6月中に1度アクションを実施する |
| 7月 | 【サービスラーニング】 課題設定編スタート ・地域課題の発見 ・テーマ希望調査 (・夏季ボランティアの計画) | ・アクションの振り返り ・2回目のアクション準備 *夏季休暇中に2度目のアクションを実施する |
| 8月 | ・夏季ボランティア実施可 | ・アクション実施(2回目) |
| 9月 | ・地域の方からのヒアリング会 ・情報収集の計画をたてる ・ボランティア計画 | ・2回目のアクションの振り返り ・3回目のアクション準備 |
| 10月 | ・ボランティア計画 ・インタビュー、アンケート ・ボランティアの実施 | ・アクション実施(3回目) *3回目のアクションは課外で行う ・3回目のアクションの振り返り |
| 11月 | ・ボランティアの実施 (ボランティアは複数回できるとよい) 【グローバルサーチ】 スタート …選択制研修事前学習(SDGs) | ・3回目のアクション・振り返り ・探究のまとめ ・マイプロジェクトエントリー準備 ・発表スライド作成 |
| 12月 | ・選択制研修事前学習 →研修旅行 (・ボランティアの実施) | ・マイプロジェクト エントリーシート応募 ・マイプロ 発表スライド(・動画)作成 |
| 1月 | ・選択制研修のまとめ ・地域課題の設定 *ボランティアも可 →高校生ができる具体的な解決課題の設定 | (マイプロエントリー結果発表) 通過者 →マイプロ 発表動画作成・出品 ・校内発表準備(ポスター準備) |
| 2月 | ・ストーリーボード(研究と学びのまとめ) →SL内で発表・共有 ・5年SLポスターセッション見学 | ・校内発表準備 ・SLポスターセッション |
| 3月 | ・まとめとつなぎ ・ポストアンケート ・春期休暇中のボランティアも可 | ・活動のまとめと振り返り ・ポストアンケート (マイプロジェクト全国大会) |

*ボランティアは9月～3月を通じて行ってよい。

0. 地域の抱えている課題をみつけよう

サービラーニングの提言プランは社会全体の問題をとらえ、身近な活動を通してその問題を解決できるものにしなければいけません。活動に社会性を持たせるために、何のためにその問題を解決するのか、その問題がどのようになっていくことが大事なのかを考えましょう。

1 サービスラーニングの大テーマ

●今年度の大テーマは次の5つです

テーマ設定のワークはできるだけ次の5つのテーマの中に入るもので決めていこう。大テーマのくくりは人数その他によって若干変動することがあります。

①地域活性・街づくり

…地域活性化・町おこし、地域PR・おもてなし、商店街の抱える課題と活性化
防災・震災、空き店舗対策、世田谷区の企業活動の支援など

先輩の活動例：商店街のマップ作り

②福祉・共生

…高齢者介護、バリアフリー、障がい者福祉、生涯スポーツ、ホームレス支援、独居老人支援、
使いやすい福祉商品の開発（企業との協力）
パラリンピック関連のイベント企画など

③子ども教育

…子どもの体力・健康向上、子どもの安全、子どもの食生活、子どもの貧困、待機児童
子ども食堂の支援

先輩の活動例：体力向上動画の作成と普及

④多文化共生・グローバル

…外国人の生活課題、外国人の地域参加・支え合いのしくみ、日本語教育、フェアトレード、
外国人にやさしい商店街、オリンピックや地域の海外発信など

先輩の活動例：外国人向け駅案内動画作成

⑥その他

…森林保護(間伐材の利用など)、多摩川の緑化、世田谷区の環境整備、リサイクル、小児医療、
闘病患者の支援、献血、動物の殺処分問題、世田谷区のエコ企業、ホームレス支援、
食品ロス（フードバンク）のためのとりくみなど

先輩の活動例：間伐材を使ったカートカンの普及活動

2 世田谷区の抱える都市型社会課題

●世田谷区の都市型社会課題の例

世田谷区は都市づくりだけでなく、環境や文化など様々な課題を抱えています。どのようなジャンルのどのような課題があるかを知り、自分の興味のある課題を見つけてみよう。

◇世田谷区の都市型社会課題の例

| 都市づくり | 都市型社会課題 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・二子玉川や三軒茶屋・下北沢などの商店街・商業ゾーンの活性化、治安対策 ・都市防災、災害ボランティア ・町おこしのイベント、広報活動 ・空き家・空き店舗対策 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者住民の増加、独居老人問題、高齢者のサポート ・子育て、保育、待機児童問題 ・子どもの体力不足、栄養不足、子ども食堂 ・外国人の増加、交流、インバウンド ・地域コミュニティ活性化 ・福祉政策、住民の区への参加意識 |
| 風景づくり | 企業活動 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・景観重要公共施設、文化財の保護 ・多摩川、等々力溪谷などの自然保護 ・世田谷農業の発信、活性化 ・公共施設、遊休地の活用 ・フェアトレードタウン | <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり企業の支援 ・魅力的なコンテンツの発信 ・魅力商品・企業の発掘・発信 ・若者向け商品の開発・広報・販売支援 ・フェアトレード商品の広報・販売支援 |
| 東京オリンピック・パラリンピック関連 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・区のオリンピック関連イベントの企画・運営、若者への発信 ・オリンピックのボランティア（世田谷区主催）への参加 ・国際交流イベント、国際発信の支援 ・福祉（高齢者・障がい者）支援、子どもへの運動の普及 ・大会後の世田谷区の取り組み ・区の住民、若者の参加を促す企画開発 | |

先輩の活動例：外国人向け駅案内動画作成

⑥その他

…森林保護（間伐材の利用など）、多摩川の緑化、世田谷区の環境整備、リサイクル、小児医療、闘病患者の支援、献血、動物の殺処分問題、世田谷区のエコ企業、ホームレス支援、食品ロス（フードバンク）のためのとりくみなど

先輩の活動例：間伐材を使ったカートカンの普及活動

| | | | |
|------------------------|---|--|------------------------------|
| 総合的な探究 1年生 | | 世田研(セタケン)① 「オリエンテーション」 | 4月13日(火) |
| 【目標】 (ねらい) | ・Can-Do「考える力」 「見つける力」 | | 課題の設定とそれに役立つスキルを学ぶ |
| 【授業概要】 | 各クラス別に実施 1. サービスラーニングの説明 2. ルーブリックの説明 3. 課題の設定 ワーク 最初の7行記述 4. プリアンケート | 【準備するもの】 ・ノート ・年間スケジュール、活動の流れ | |
| 授業の流れ | | 支援上の配慮事項 | |
| 【導入】 25分 | オリエンテーション 「サービスラーニング」とは(ZOOMで全体説明) ・活動の流れについて ←活動スケジュール表を配布 ・探究のサイクルについて ・今年度の動き ～課題設定の流れ3つのSTEP | | 年間スケジュール、活動の流れと育成したいスキルを確認する |
| 7分 | ルーブリックの説明 ①ルーブリックを配布 ②研究を進めるうえで意識する点について全体で確認する。 ・(目的・分析結果・提案力の項) | | 育成したいスキルと結びつけて説明する。 |
| 7分 | ワーク① 最初の記述 ①ノートにサービスラーニングについて5行で記述する。 *最初の時間と最後の時間を実施し、自分の成長を見るためのものなので全くかけなくても問題ない。 | | 決意表明のような形で行わせるとよい。 |
| 10分 | ポートフォリオの作成について説明。 ①Google classroom にアクセスする ②ポートフォリオの Classroom にあるスプレッドシートを開き、左下の「+」を押して、新しいシートを表示する。 ③「総合探究振り返り」のシートとして毎時間用いる。 シート名の変更をすると探しやすい。 シートに一人一人が日付とテーマ、今日の振り返りを簡単に記入する 次の時間から本格的に地域課題を探る活動を始める。 | | 最初なので決意や意気込みなどの簡単な内容でよい。 |

ポートフォリオのイメージ

| 日付 | テーマ | 学んだこと・活動したこと |
|------|--------|--------------|
| 4/13 | 探究スタート | |
| | | |
| | | |

4-1 情報の整理・分析をしよう

①集めた情報を整理・分析して探究する地域課題を見直す準備をしよう

これまで集めた情報から、小さな問いに対して分かったこと、新しい気づきや学びを整理・分析しよう。

↓03で作成した「情報収集計画シート」の小さな問いを書こう。

| | |
|--------------|------------------------------|
| 小さな問い | |
| | 小さな問いに対して分かったこと |
| | (情報収集するまではわからなかった) 新しい気づきや学び |

| | |
|--------------|------------------------------|
| 小さな問い | |
| | 小さな問いに対して分かったこと |
| | (情報収集するまではわからなかった) 新しい気づきや学び |

| | |
|--------------|------------------------------|
| 小さな問い | |
| | 小さな問いに対して分かったこと |
| | (情報収集するまではわからなかった) 新しい気づきや学び |

| | |
|--------------|------------------------------|
| 小さな問い | |
| | 小さな問いに対して分かったこと |
| | (情報収集するまではわからなかった) 新しい気づきや学び |

5-2 探究する地域課題をチェックしよう

① あるべき「理想の姿」と「現実」とのギャップから、そこにある問題を探ろう

| こうだったらいいのに、と思う「つくりたい未来像」 | つくりたい 理想 | 気になる 現実 | どうにかしなければ、と思う「気になる現状」 |
|--------------------------|-------------|------------|-----------------------|
| | | | |

現実と理想のギャップ(差)は？ 理想と現実との間の何をどのように埋めると理想に近づくか考えてみよう。

考える際のポイント

- ① 理想は「誰にとって」、「どのような状態が」理想なのか、具体的にイメージして記入してみよう。
- ② 現実には「その状態が続くと何が起こるか」「誰が困るか」を、体験や調査でわかったことをもとにまとめよう。内容はできるだけ具体的に書き、なるべく主観を入れないようにしよう。

②①で考えたことをまとめて「あなたが解決したい地域の課題」をあげてみよう。

私たちが解決する(したい)問題は… 一言ではなく文で書くようにすること

③「地域課題」をより具体的にしていこう。

いつ？

いつの話？

どの地域・場所の話？

どこ

対象

誰に対して？何を対象にする？

課題の中のあいまいな言葉は？

あいま

作りなおした研究課題

*「どこで？」や「対象は？」はそれぞれのボランティア活動先などにしてもよい。

7-1 地域課題の解決策を考えよう

●解決策をあげてみよう ～課題解決のためのアクションアイデアシート

ブレインストーミングであがったものを中心に、手段と目的を組み合わせて、探究課題を解決するために実行できそうな解決策をどんどん考えてみよう。実現できるかどうかの絞り込みは後で行います。

探究する課題

| 手段 | ものづくり | イベント | その他 |
|----------------------------------|-----------------------------------|----------------------------|-----------|
| 目的 | 広報物・アプリ・動画など、形に関わらず「有形物」をつくるアクション | 単発でも継続でも「無形」のサービスを提供する取り組み | しくみづくり など |
| 魅力化 何かをよりよいものにする実践 | つくるもの | 企画すること | |
| 普及啓発 何かを伝える・知らせる・広める実践 | つくるもの | 企画すること | |
| 支援 課題を抱えている人を直接助ける実践 | つくるもの | 企画すること | |
| その他 | つくるもの | 企画すること | |

出てきたアイデアには番号（①、②…）を振っておこう。たくさんあげることができたら、次のステップに移ろう。

6 - 進路探究(3年生)

進路探究「Showa Career Vision」

Showa Career Vision は、これまでの自身の行った探究などの経験や学びをまとめ、自己のキャリアデザインを作成していく探究の総括的活動として、高校3年次に実施している。本校の教育目標である「世の光」となれるように自身の将来像を思い描き、そこに到達するために踏むべきキャリアステップを「学びの履歴書」「学びの設計書」の作成を通じて描いた。また、SDGsの国際課題も含めた絶対的な正解のない課題に取り組む「非認知スキル育成プログラム」を実施し、本人の強みや改善点などを認識できるようにした。

(1) 目的

これまでの学びを生かして自分の進路や将来へのビジョンを立てさせる取り組みを通じて、自己のキャリアデザイン力を養う。

- ・探究の蓄積をまとめ、自己を知る(→自己PRにつなげる)。
- ・自分の探究や学びから自分の将来をデザインする。

(2) 育成する力

- ・伝える力 : プレゼン力、記述力、構成力
- ・考える力 : 論理的に考える、データ分析力、判断力
- ・つながる力 : 学びと経験をつなげる、仲間とつながる、進路につなげる
- ・見つける力 : 自分の強みを見つめる、進路をみつめる、価値を見出す、発想する力

(3) 実施内容

| 実施期間 | おもな活動(2021年度) | 生徒人数 |
|------|---|------|
| 前期 | <ul style="list-style-type: none"> ・探究活動のまとめと振り返り ・志望校アドミッションポリシー調べ ・「学びの履歴書」づくり&「個人の学び」の書き出し ・「学びの設計書」づくりとシェア など | 184名 |
| 後期 | SDGs カリキュラム(ディベートなど)全9回*日本アクティブラーニング協会 テーマ例 皆既日食の捉え方 経済三方良しの方策を考える 100年前の女性と今の女性 虫の異常発生への対応策 | 184名 |

【SDGs カリキュラム・グループワーク】



7- グローバルイシュープログラム

【目的】

世界規模で問題や自分をとらえる機会を設けてグローバルな視野を育み、リーダーとして将来活躍できる問題解決力、コミュニケーション力、キャリアデザイン力などの国際的素養を身に付けるため、本校で現在随時実施しているSDGsをテーマにしたグローバルキャリアや社会の諸問題についての講演を発展させ、第1学年を中心にSDGsキャリア講演を実施する。グローバルに活躍する研究者や企業(世田谷区の企業が望ましい)の体験談やグローバルな取り組み、本校の卒業生でグローバルな分野で活躍している大学生や社会人を招いての世界で働く実際の様子などを題材に行う。

(1) SDGs キャリア講演会

日時：2022/1/25（火） [第1部] 12:50～13:35 [第2部] 13:40～14:25

[第1部]

「看護師・助産師として海外協力隊員で活動して身につけた力」

講師：JICA 大橋恵美氏（派遣国：カンボジア）

[第2部]

「海外協力隊員として活動して身につけた力～途上国支援の視点から～」

講師：JICA 児玉久美子氏（派遣国：ネパール）

【生徒の感想】

[第1部] 「看護師・助産師として海外協力隊員で活動して身につけた力」 JICA 大橋恵美氏

- ◆ 今回のお話で世界に行くことで日本の現状をさらに理解できることが分かりました。大橋さんがおっしゃっていた「自分のことを、自分で決められる自由をもっている」ということを聞いていつの間にか消極的になっていた自分がいたことに気が付きました。そして、自分で決めるということは自分で責任をもつことも同じくしなければならないなと思いました。カンボジアの家族を大切にす文化と東日本大震災の時日本は様々な国から助けられていることに感動しました。今後、私にできることを考えたくさんの人の助けになれるよう現状を知りそれに向けての解決策を見つけていきたいと思います。貴重なお時間ありがとうございました。（高1）
- ◆ 私は今まで命を守ることは医療の発展具合が直結していると思っていました。しかし、お話を聞いて読み書きや計算を学ぶ初等教育やインフラ整備、法制度、健康教育など医療の他にも様々なことが関係していると知り、驚きました。このことは日本にはなかなか気づくことが出来なかったと思います。また、最後にお話しされていたことですが、違うところを認めることは大切だけれど日本と同じところを見つけた方が楽しいとおっしゃっていたことが印象に残りました。異文化理解といったらやはりお互いに違う文化を受け入れることと思っていて、同じところを見つけてそれを楽しむという発想は無かったので新鮮でした。今度からは違う部分だけではなく、同じ部分も見つけないかと思っています。（高1）

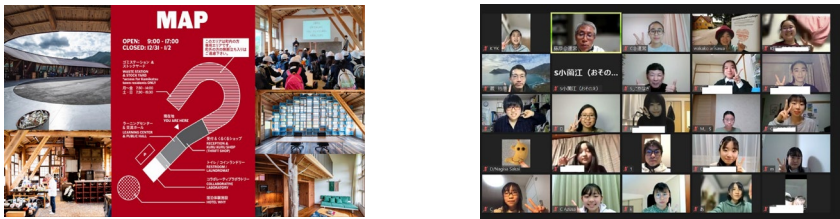
- ◆ 先進国である日本は、支援をする国だと思っていましたが、東日本などの災害の際などには174カ国から支援を受けていたことに驚きました。また、174カ国のうち119カ国が途上国であることを知り、国際協力とは一方的なものではなく、貧しい国も豊かな国も、困ったときに助け合うことなのだ学びました。そして、国際協力をしていくためにまずは、自分の英語力を高めるなど、自分にもできることから挑戦していこうと思いました。今回の講演を通し、自分のことは自分で決め、やりたいことを貫いていこうと思う良い機会となりました。貴重なお話しありがとうございました。（高2）

[第2部] 「海外協力隊員として活動して身につけた力～途上国支援の視点から～」 JICA 児玉久美子氏

- ◆ ネパールの文化や特徴について学ぶことができました。貧困の割合が55%で、インフラが整っていないかったりカースト制度があったりと厳しい環境の中で生きている人がたくさん存在するとわかりました。このような状況を知りとても驚いたと共に悲しい気持ちになりました。しかし今の私が何か大きな協力ができるわけではありません。そのため世界には厳しい状況で生きている人たちが多くいるということを理解し、世界の現状を日々学ぶことを大切にしたいと思います。この度はご講演をありがとうございました。（高1）
- ◆ 本日は児玉久美子先生のネパールについてのお話をいただきまして、誠にありがとうございました。今回初めて JICA ボランティア事業という言葉を知りました。発展途上国からの要請に基づきそれに見合った技術や知識、経験を持ち発展途上国の人々のために活かしたいと思う人を募集し派遣するという事業に興味を持ちました。普段中々発展途上国のことについて知れる機会はありませんがこうした講演などが自分の将来に向けるきっかけになると思うので私も自分事として考えていきたいです。
- ◆ 本日は貴重なご講演ありがとうございました。（高2）

国ごとによって、インフラ整備や衛生状況、食べ物、環境などが異なると思うので、いざ派遣された国で何かを成そうとしても壁は沢山あるのだと思いました。そのなかでも、私は自分ができることを見つけ、行動を起こすことが大切なのだと思います。現地の写真を見て、とても驚くことや悲しい気持ちになるものがいくつかありました。現実に変な思いをしている人々は大勢いて、今私が直接できることはないかもしれませんが、今回の講演で知ったことで、まだまだ平等な生活が出来ていない人々がいることを痛感しました。このような状況を忘れず、考え続けることが今の私ができることだと思います。（高2）

(2) ユネスコスクール課外授業

| | |
|---|--|
| <p>①プラスチック汚染と気候変動～わたしたちに今、何ができるだろう～</p> <p>②「ごみゼロ宣言」徳島県上勝町 大塚桃奈さんの挑戦～私たちに今できること～</p> <p>③世界の中の自分を探る～デンマークとガーナでの体験から日本人としての自分を考える～</p> | |
| 実施日時 | ①2021年5月3日(月) ②2021年8月15日(日) ③2021年12月23日(木) |
| 講師・場所 | <p>◆講師：①映画上映</p> <p>②大塚桃奈氏(徳島県上勝町ゼロ・ウェイスト・センター・リーダー)</p> <p>③有澤和歌子氏(デンマーク(株)代表)、蔵裕康氏(デンマーク(株)インターン)</p> <p>◆場所：①～③オンライン(ZOOM)</p> |
| 対象生徒 | 全校生徒 |
| 内容 | <p>①プラスチックゴミ問題の解決に向けて行動を起こしたニューヨークの小学生の活動を描いたドキュメンタリー映画『マイクロプラスチック・ストーリー：ぼくらが作る2050年』を観て、自分たちに今できることを発表し合った。</p> <p>②大塚さんが環境問題に強い関心を持つに至った背景を聞いたあと、徳島県上勝町の「ごみゼロ」への取り組みを具体的に聞き、参加者それぞれが「行動宣言」を発表した。</p> <p>③人生の学校と称されるデンマークのフォルケホイスコーレに留学した経験から教育会社を起業した有澤和歌子氏と、高校時代に「トビタテ!留学JAPAN」によるガーナ留学がきっかけで将来やりたい仕事が変わったという大学生、蔵裕康氏の体験談を聞きながら、「世界の中の自分、自分が将来本当にやりたいこと、自分を囲む目に見えない『透明の箱』から出る方法(Out of Box)」を、対話しながら探求した。</p> <p>※会の企画・運営はすべて本校生徒が務めました。第2回以降は生徒の提案により、他校の中高生や大学生・社会人にも参加を呼びかけ、いずれも多数の参加者を得ました。</p> |
| |  |

(3) SDMs(Speech, Debate and the Model United Nations Society)の諸活動

SDMs(「スピーチ・ディベート・模擬国連の会」)は、有志による自主的な課外活動グループである。2017年秋に発足し、当初は模擬国連を中心に活動を始めた。2018年度から国際ボランティア活動も開始し、上記②の「ユネスコスクール課外授業」とも連携しながら、SDGsを柱に活動を行うようになった。

今年度はメンバーが増え、中高生で50人を越える生徒が登録し、活動した。また、昨年度に始めた、隣接するインターナショナル・スクール「ブリティッシュ・スクール・イン・トーキョー(BST)」との連携活動が一層盛んになったのも今年度の特徴である。加えて、校外の英語スピーチ・コンテストでも全国優勝する生徒が出る等、各種コンテストでも成果を上げた。

以下、(1)活動報告として、(i)模擬国連、(ii)SDGsボランティア活動およびブリティッシュ・スクール(BST)との交流活動、(iii)英語スピーチ大会等の3分野に分け報告する。最後に(2)で「成果と課題・展望」について記す。

I. 活動報告

(i) 模擬国連

模擬国連の活動は、本校では2014年度より開始した。高校模擬国連の最高峰と言われる「全日本高校模擬国連大会」（グローバルクラスルーム日本協会主催）にも、2014-2016年度の3年間連続出場を果たした。その後、2020年度「第4回全国高校教育模擬国連大会 AJEMUN」では、「最優秀大使賞(初心者議場)」を高校1年のペア2人が受賞した。

2021年度は、高校生に加え、活動が普及し、中学生も会議で「優秀大使」として表彰を受けるようになった。校内の「模擬国連人口」は現在、「微増」程度にとどまっているが、参加している生徒達は、おもしろさがかかって、継続して参加する傾向がみられる。なお、今年の会議は、すべてオンラインで行われた。会議は対面で開催されるべきだが、オンラインだと自宅から気軽に参加や見学のできる良さもある。

今年度、参加した会議と生徒達の活躍は、以下の通りである。延べ41人の中高生が計7会議と1ワークショップに参加し、延べ7人が4回の入賞を果たしている。

2021年度 模擬国連会議

| 日時 | 主催 | 会議名称・議題 | 参加人数・学年 | 入賞 |
|-----------------------|------------------------|-------------------------------------|--------------------------|--|
| 4月18日(日) | Let's MUN! (高校生の団体) | 春の陣「COVID-19下の国際協力」 | 高1(2人) | なし |
| 7月19日(月) | SDMs主催 | 模擬国連・初心者向けワークショップ(講師:OG大学生) | 中1~高2 (11人) | 設定なし |
| 8月7日(土) & 8日(日) | 全国中高教育模擬国連研究会 | 第5回全国高校教育模擬国連大会(AJEMUN)「児童労働」 | 高1~高2(6人) | なし |
| 9月12日(日) | Let's MUN! | 長月会議「多文化共生」 | 中2~高1(5人) 27か国、約60人参加 | ●高1「フロント賞(3位相当)」(2人) ●中2「フロント賞」(1人) |
| 10月2日(土) & 3日(日) | NEW MUN (高校生の団体) | 「人権とジェンダー平等」 | 中2(1人) (他校の高校生とペア) | 「優秀賞」(1位相当) |
| 12月26日(日) & 27日(月) | 大妻中高&渋谷教育学園渋谷中高 | 模擬国連冬大会「移民問題」 | 中2(2人) 高2(4人) | なし |
| 1月9日(日) & 10日(祝) | 玉川学園&頌栄女子学院 | 玉川頌栄模擬国連会議「水産資源の保護」 | 中2(2人) 高1~2(6人) | なし |
| 2月6日(日) | Let's MUN! | 新年会議「アフガニスタンにおけるタリバン政府の扱いと人道問題について」 | 中2(2人) | 中2「フロント賞(3位相当)」(2人) |



模擬国連 表彰状



模擬国連 オンライン会議の様子

【模擬国連・生徒感想】

◇9月「長月会議」

私たちは「多文化共生」というテーマのもと、イスラエル大使として1週間前から会議に向けた準備を進めました。その中で私たちは3つある論点のうち、宗教という論点を重視することに決め、事前に参加国で多く信仰されている宗教について情報を集めました。それによって当日、先進国と開発途上国でグルーピングをした際、途上国グループにおいて全体の意見をまとめることができました。他の大使たちと協議しながら、最終的に一つの「決議案」と「修正案」を作成しました。会議後の講評では、私たちの積極的な姿勢を評価していただき、「フロント賞」（3位相当）を受賞することができました。

今回、今まで出場してきた模擬国連で培ったコミュニケーション力やリーダーシップ力などを活かし、議場の先頭に立って会議を先導できたことを誇りに思います。今後は、より多くの人に模擬国連の楽しさを知ってもらえるように、活動していきたいです。（高1）

◇「模擬国連」に挑戦して

私は、模擬国連に今まで四回出場させていただきました。はじめは進行についていくのが精一杯で会話に入ることができずでしたが、数を重ねるごとに、他国の大使さんと意見を交換したり、決議文書への作成に携わることができるようになりました。初対面の人とオンライン上で一つの目的に向かって話し合うのは難しく、また緊張しますが、模擬国連に参加することで他では得ることのできない経験や自信、かけがえのないものを得ることができました。事前準備が大変だったり、二日間にわたるオンラインでの会議は心身ともにこたえるものがありましたが、ペアと一緒に、模擬国連に参加することができて良かったです。（高2）

◇「模擬国連の経験」

様々な活動に参加して、印象に残ったことは、他校の学生さんたちが初めて会った他校の高校生と自分の意見を積極的に述べあっていたことです。躊躇して自分の意見を言わずに聞いていると、どんどん話についていけなくなってしまいます。ですから少しでも他の人と違う意見だと感じたら積極的に提案していくことが大切だということを学びました。これまでに参加したいろいろな活動で学んだ、文脈に沿った英語の使い方や、他者を思いやりながらも自分の意見を積極的に言うことなどを意識して、今後の学業や生活に活かしていきたいです。（高2）

◇2月「新年会議」（「フロント賞」受賞）

私は、今回が2回目の会議でした。フランス大使として、「アフガニスタンにおけるタリバン政府の扱いと人道問題について」を議題に30か国以上と議論しました。立場をはっきり認識するために、いくつかのサイトを使い様々な情報を集めて、会議に臨みました。しかし、なかなか意見を言うことができず、自分の発言が自国の国益に反していないかを気にすることしかできませんでした。フランス大使として国際益を重視しながら議論をすることが必要だったのですが、それができず悔しく思います。

今回の会議では、どの国も賛成できる政策を考えることを意識し、文書を書くことやスピーチの仕方などを学びました。今後は、意見を主張し、まとめていけるように努力していきたいと思います。（中2）

◇2月「新年会議」（「フロント賞」受賞）

私たちは大人数の中でのリーダー争いが苦手なため、決議案（文書）を書いて他グループとの交渉をまとめようと会議に臨みました。

今回は、議場全体で、「コンセンサス（全会一致）で文書を採択する」という大きな目標がありました。しかし人権問題では、イスラム教を国教とする国などと欧米諸国との間で、大きな対立があります。私は、イスラムの国であるヨルダンやアフガニスタン大使を経験したこともあるのでその経験を活かし、どちらの立場でも容認できるよう文言案を作成したり、他グループとの交渉をまとめる文言を入れたりすることで、コンセンサスに貢献することができました。

決議案の書き方について、会議で出会った経験豊かな先輩方に助言をいただいたので、今後はそれを活かしてもっと議場に貢献できる大使となっていきたいです。（中2）



OG 大学生による模擬国連ワークショップ

(ii)SDGs ボランティア活動およびブリテイッシュ・スクール (BST) との交流活動

前期はコロナ感染予防のため、課外活動は制限された。後期 9 月から活動を開始した。以下の表に SDGs 関連の主な活動を記す。

| 日時 | 活動名 | 内容 | 参加者 |
|------------------|---|--|--|
| 9-11 月 | 「おにぎりアクション」 10/16 国連・世界食料デー(NPO 法人 Table for Two International 主催) | 両校で協働参加。おにぎりの写真かイラストを同サイトに投稿することで寄付になり、アジア・アフリカの児童の給食になる。本校では計 406 枚、4 万 600 円分の寄付になった。給食 2030 食。共同で特大おにぎりポスターを 2 枚作成した。BST では 500 枚以上のイラストが集まった。 | BST 全校生徒が、昭和は有志で参加した。 SDMs と生徒会活動(文化部)が共催した。 |
| 11 月 14 日 (日) | 昭和祭での SDGs 合同発表(日英バイリンガル) (10-12 時) | 目的: SDGs を柱に両校で交流する。 昭和: ◎高校生の活動報告。◎中 3 「英語ディベート」(お題: 「別学と共学、どちらが良いか」)。◎中 2 「SDGs 動画」制作と放映。 ◎中 1 「プラスチック削減: 蜜蝋ラップを作ろう! ワークショップ」 BST: ◎ Well-being 大使の発表。◎ E-Cool (環境チーム) リーダーの活動報告。 | 昭和: 23 人(高校生 4 人、中 1・4 人、中 2・3 人、中 3・12 人) BST: 4 人 |
| 12 月 15 日 (水) | BST の Sakura Book Club と合同読書会 (16:00-17:10) | 目的: 本を通して両校の相互理解を図る。日本語の本(「52 ヘルツのクジラたち」町田そのこ著)を読み、日本語でディスカッション。模造紙に意見・感想や絵を描き、発表。 | BST: 中高生 12 人+教員 1 人 昭和: 中高生 20 人 |
| 1-3 月 | 合同ディスカッション企画(日英バイリンガル) | BST からの提案で合同ディスカッションの企画を練る。22 年度 5 月に実施予定。 テーマ: [能力主義は正義か?] (Is meritocracy justice?) | BST 高校生 2 人 昭和: 中高生 6 人 |

【生徒感想・学校HP掲載】

◇「おにぎりアクション」報告

今年度も文化部、SDMs (模擬国連・SDGs 等の有志の会)、British School in Tokyo (以下 BST) が共同して、「おにぎりアクション」に参加いたしました。

「おにぎりアクション」は、世界の食料問題の解決に取り組んでいる特定非営利活動法人・TABLE FOR TWO International が開催しており、「おにぎり」の写真や SNS、または「おにぎりアクション」の特設サイトに投稿すると、1 枚の写真投稿につき給食 5 食分に相当する寄付 (100 円) を協賛企業が提供し、アフリカ・アジアの子どもたちに給食をプレゼントできる取り組みです。

今年度の「おにぎりアクション」は、国連が定めた 10 月 16 日「世界食料デー」(世界中の人が食べ物や食料問題について考える日) を記念し、10 月 5 日から 11 月 5 日までの 1 か月間開催されました。

今年度、全国では 273,976 枚の投稿があり、1,397,795 食もの寄付ができたそうです。本校では、そのうちの 406 枚を投稿し、2,030 食に相当する、40,600 円分の寄付ができました。ご協力してくださった皆さん、本当にありがとうございました。

また、BST と本校の両校でおにぎりのイラストを募集し、多くのイラストを寄せ合わせたおにぎりポスター 3 つ(大 2 つ、小 1 つ)を作成いたしました。とてもユニークで、あっと驚かされる、素敵なイラストばかりでした! 参加してくださった皆さん、ありがとうございました。

「おにぎりアクション」は、国連が掲げる「持続可能な開発目標 (SDGs)」のうち、5 つのゴールに貢献す

る活動ともいわれています。その中にはコロナ禍でより深刻になった、「1.貧困をなくそう」「2.飢餓をゼロに」も含まれています。今回、届けられた給食は、子どもたちの栄養改善だけでなく、経済的な理由等で学校に通えなかった子どもたちが給食を求めて登校するため、教育を受ける機会にもなり得ます。

私は、飢餓の解消など様々な課題を、国連機関やNPOのみの課題とせず、私たちの課題でもあると認識することが大切だと思います。SDGsの目標達成のために私たちができることは少ないかもしれませんが、おにぎりアクションなど、社会に貢献できる活動はあります。そのことを知り、本校やBSTで推進でき、そして多くの方が賛同し、参加していただき、少しでも社会に貢献できたことを嬉しく思っています。(高2)



BSTと「おにぎりアクション」

【生徒感想・学校HP掲載】

◇昭和祭：「ブリティッシュ・スクールと合同企画：SDGs コラボレーション」

～ウェルビーイングや環境アクションについて報告～

11月14日に実施された昭和祭で、SDMsは、隣接するブリティッシュ・スクール・イン・トーキョー(BST)と合同発表会を主催しました。SDMsからは中学2年生から高校2年生までの計23人が参加。BSTからは4人のゲストを迎え、2時間弱、SDGs関連の活動を報告し合い、相互理解を育むきっかけとなりました。

◎ 高1

昭和の生徒は、模擬国連などのSDMs活動報告、SDGsのオリジナル動画の放映、国際コンテストの受賞報告、英語ディベートなどを行いました。BSTからは、健康や幸福といった分野で注目されている「Well-Being大使」が、体験型のプレゼンテーションを行いました。また、環境問題に取り組む「E-Cool大使」は、プラスチック削減の一環として、「自動販売機」を全廃し、ペットボトルの校内販売を禁止した経緯や、現在取り組んでいる「持続可能な・ファッション」の活動紹介がありました。また、プラスチックに限らず、循環型の学校に改善していくために実践できることを提言するプランについても共有してもらいました。

英語ディベートは、「中高生にとって、別学よりも共学のほうがよい」というテーマのもと、中学3年生によって全て英語を用いて実施されました。また、どちらがより説得力に長けているか、声の大きさが適切であるかなどの審判を、BSTの生徒が担ってくれました。同じテーマで2つのグループに分かれて行ったところ、片方のグループでは賛成派が、もう片方では反対派が勝利するという結果になりました。英語ディベートに初めて挑戦した3年生12人は、それぞれの意見を尊重し合い、論理的に考え続けることの大切さを知ることができました。

また、SDMsのサイエンスコースの中学1年生4人は独自企画を実施しました。プラスチック削減のためにできることは何かを考え、蜜蝋を使った「蜜蝋ラップ」を作るワークショップを実施。多くの方に蜜蝋ラップを作っていただき、日常生活で環境保全への思いを行動に変えていく大切さを伝えました。

今回、私たちが合同発表会の企画・司会を務めた理由は、SDGsや社会問題に関心のある生徒が意見を伝える場所を作りたいと考えたからです。初めて責任者の立場に立ち、発表会全体を総括する難しさや、やりがいを感じました。今後は、BSTとの繋がりを活かし、SDGsを校内外により広めるため、引き続き活動を行っていきます。

◎高1

私にとって、昨年度に引き続き行われたBSTと昭和の共同昭和祭は、とても新鮮なものでした。今年は各グループごとにやる内容が異なっていたので、それをまとめ上げるのは難しいものだと最初は危惧していましたが、練習や打ち合わせを通していく中で、自分のリーダーシップ力や責任感の向上を感じる事ができました。今

後は得られた能力を学校内の行事や委員会などで更に発揮出来るよう精進していきたいと思いました。また、BSTとは互いの良い所を取り入れつつ、一体となってより良い学園を築いていきたいです。

◎ 昭和祭 「SDMs×1S」(サイエンス・コース・中1)

「プラスチック削減アクション!～蜜蝋ワークショップ～」

私たちは、昭和祭でプラスチック問題のことをより多くの方々に知っていただくために、「みつろうラップ・ワークショップ」を開催しました。このワークショップは、私たちSDMsの1年S組のメンバーが、興味のある環境問題に向けて、この公の場で何か自分たちにできることをしようと考え、先生方や先輩方のご協力を得て開催したものです。

多くの方々に、実際に使用することのできる「蜜蝋ラップ」を制作することを通して、環境問題の一つである「プラスチック削減問題」について、少しでも興味を持っていただくことを目的としました。

しかし、軽い気持ちからの始まりでしたが、いつしか私たちは大きな学びや力をたくさん得られていました。その一つとして、「自分たちの志を行動に移し、社会に働きかけること」の大切さがあります。

世界の環境問題などは、ただ身の回りの仲間や団体と、頭の中で考えているだけでは、何も始まりません。まずは考えて、それを仲間ときちんと行動に起こし、世の中に働きかける、つまり「考えを行動に移して周りに発信する」ことこそが、このような活動をしていく上で、基礎でもあり、とても大切なことだと実感しました。

私たちが取り組んでいる「プラスチック削減問題」は、環境問題の中でも、世界で特に重要視されている「SDGs」の一つでもあります。

未来の地球のためにも、今回の活動で先生方や先輩方に教わったこと、自ら行動に移したことで気付かされたことを心に留め、「考えを行動に移して周りに発信する」ことを徹底して、今後の活動に生かしていきたいです。



昭和祭～BSTの生徒らと～



「プラスチック削減：みつろうラップを作ろう!」

(iii)英語スピーチ大会等

| 日時 | 主催 | 大会名称 | 入賞 | 内容 |
|--------------|--|----------------------------|-----------------|--|
| 6月 | Interaction and Design and Children(IDC) (本部ギリシア) | 国際デザイン・コンテスト | 高2(ペア) 「特別賞」 | 「デザインや技術の力を使って、コロナ禍を越えて、より良い世界を想像しよう」という趣旨の国際コンテストに、「ICTの力を使って、より質の高い教育を多くの人に」というコンセプトで応募し、特別賞を受賞した。 |
| 11月6日 (土) | 青山学院大学 E.S.S. 関西学院大学 E.S.S. | 第70回チャーター杯争奪全日本高等学校生英語弁論大会 | 高2：全国大会で優勝 | 「偏見を越えて：When You Look Beyond Your Bias」(挨拶をしても挨拶を返さない男性が同じマンションにいた。「失礼な人だ」と思って軽蔑していた。ある日、その人が補聴器をしていることに気づく。自分の声が聞こえていなかったかもしれない。そのことに気づいてから、その人との関係性が変わっていった。自分の偏った見方や思い込み気づき、それを手放すように努めることで、人とのつながりが生まれ、より優しい社会を作ることができると思う。) |
| 2月19日 (土) | 東京都第八支部英語研究会 | 第71回英語スピーチ・コンテスト | 高2：高校スピーチ部門2位 | 「対話の力：Build Dialogue, Build Community」(模擬国連や校外のSDGsプログラムを通して、「対話の力」を養った。より良い世界を築いていくには「対話力」は欠かせない。) |

【生徒感想】

◇SDMsの活動を通して学んだこと：英語スピーチ・コンテストに挑戦

今年、私はSDMsのメンバーとして模擬国連や、「おにぎりアクション」など様々な活動に参加させていただくことができました。とにかく挑戦し、充実した学校生活を送りたいと思っていた私は、国際コンテストや昭和祭での発表、そして昭和だからこそ実施できたBSTとの共同など、他者と関わる機会を多くいただきました。その分、得た学びも大きかったです。特に印象深い活動としては、英語の八支部スピーチコンテストに挑戦したことです。私は英語を介して**自分の意思を発信したい**と思いフリースピーチ部門を選びました。放課後の原稿作成や、休日にはzoomを活用して練習を行いました。先生方にも協力していただき、2位の結果を残すことができました。

私はこのスピーチ・コンテストに挑戦したことで、なんとなく描いていた社会課題に対するイメージを原稿作成の過程で何か月もかけて考え抜くことを通して、自分の経験や活動をもとに具体的に言語化し、明確にすることができました。はじめは「日本の同調圧力社会を変えていくためには」というテーマを置いて考えていました。しかし、熟考していくにしたがって、「よりよく生きるためには」、「そもそも平和な国際社会を築くには何をすべきか」といった深い課題に落とし込むことが出来ました。

SDMsでの活動で、私は他者から得られる学びを自分に反映させる重要性を学びました。ともに活動する友人や活動で出会う他校の生徒のおかげで、斬新なアイデアや論理的な考え方など、自分とは異なる方面からの意見に触れることができました。そしてそれらをうけいれて自分に落とし込むことで、私自身の視野を広げ、新たな発想を得る助けにもなりました。今年はこの学びや経験を生かして、自分が将来学びたいことに様々な方面から研究を深めたいです。(高2)



◇国際コンテストでSDMsの2年生ペアが入賞：

~Interaction and Design and Children (IDC)：“(Re)imagining a world after COVID-19”~

「インタラクティブ・デザイン・子ども達」(IDC)という国際コンテスト。「デザインや技術の力を使って、コロナ禍を越えて、より良い世界を想像しよう」という副題がついている。

【入賞した高2の二人にインタビュー】

1. どんなアイデアを、どのような形で提出しましたか？

・私たちは、「質の高い教育を全ての人へ提供する」という軸の下で「教育、男女平等、テクノロジーの利用」という視点からアイデアを考えました。一次審査では、ポスターを制作し、二次審査でプレゼン動画を提出するという形でした。

2. なぜ挑戦したいと思いましたか？

・私はどんなことにおいても挑戦する機会があればやってみたいと思っているので、コンテストの募集を知った時には、深く考えずに即座に参加したいと思いました。また、挑戦することによって自分の中で様々な気づきがあると思うので、経験の一つとしてチャレンジしてみました。

・国際的なコンテストへの参加に興味がありました。また、ペアの友人とは模擬国連などへの参加も過去にしていたので、今までに経験したことのないものにも2人で挑戦してみたいと思ったからです。

3. 苦労したことはありましたか？

・私がこのコンテストで苦労したこととしては、一次審査を通過し二次審査でショートビデオを作製する際に、述べたいことを1分という短い時間に詰め込むことでした。特に、英語での提出になるので、伝えるべきことを的確に述べる、かつ分かりやすくプレゼンをすることを心掛けました。

・私が特に苦労したことは2次審査のショートビデオの音声吹き込み際に、海外の方にも伝わるように、はっきりと聞き取りやすいように発音することと、自分たちが今一番伝えたいことを強調するように語ることでした。

◇英語動画の要旨

Hello. Our proposal is to provide high quality education for all.

It is important to use and apply science and technology as a means to achieve this goal. To that end, we have been thinking from three perspectives. The first is education, and we will use computers to create an environment where all children can learn at any time. We would like to hold classes online. The second is gender equality. We would like to create gender-free learning opportunities for students. For example, we will create a program where students can experience professions they want to work in, and their choices should be free from any gender biases toward professions. We believe this kind of chances will help students to improve their motivations for learning. The third is environmental issues. We would like to teach online how to improve our awareness on environmental issues, and take concrete action. For example, we could teach students on how to improve water quality through experiments, which can be easily conducted. This kind of learning opportunities will enable young people to act by themselves to protect the environment, thus protect themselves.

These activities will change ways we think about education around the world. Thank you.

IDCサイト：<https://idc.acm.org/2021/>

II. 成果と課題・展望

《成果》

生徒たちは様々な活動に自らチャレンジをするようになり、外部の大会で入賞する等、成果をあげている。校内にとどまらずに、外で新しいことにトライしようとする逞しさを養ってきたと言える。

また、自分たちで自主企画をする生徒が増えたのも、今年度の特徴であった。「昭和祭」でも、中学生の自主企画が3つあり、それぞれに最後まで遂行し、成功を収めた。高校生の活動が中学生に波及した結果である。ことに、「プラスチック削減アクション」として自分たちにできることを考えて「蜜蠟ラップ」を作った中1の生徒たち4人の企画力、行動力と遂行する粘り強さには目を見張った。高校生は、それらをうまくまとめて、ブリティッシュ・スクールとの合同発表会を成功させた。

昨年までは、会の代表は置いていなかったが、代表を置くことで、グループにチームワークや仲間意識の片鱗が芽生えてきたことを感じる。高校生のリーダーシップ力を発揮する機会となっている。。

《課題・展望》

ブリティッシュ・スクールとの交流では、昭和祭では「双方が発表して終わり」という面が強く、そこから何かが発展していくには至っていない。今後の課題の一つは、「継続的な交流や学び合い」にどうつなげるか、という点であろう。

5月に「プラスチック・ストーリー」というドキュメンタリーをユネスコスクール課外授業の一環で、SDMs生徒が運営して上映した。これを見て感銘を受けた生徒たち20人ほどが、「自分たちにできることは何だろう。学校に働きかけられることはないか」という思いに動かされて、昼休みに数回、集まった。だが、それを具体的な提言や行動などにまとめるには至らなかった。「何か行動したい」という思いを持つ生徒がこんなにも多いことを知った。

来年度は、この点を補うべく、「サステナブルな学校を作るには」というプロジェクト(Operation Green)を外団体(Earth Company, Impact Academy)の力も借りて行う予定である。具体的に学校の毎月のエネルギー消費量(電力、水道、ガスなど)やゴミ廃棄物のデータを集めて、いかにしてこれらを削減し、二酸化炭素排出量削減・温暖化防止に寄与するか、生徒が分析し、提案し、行動するプロジェクトである。ブリティッシュ・スクール(BST)とも共同で、1年間かけて取り組む予定である。ディスカッションで終了しがちだった活動が、「提言と行動へ」広がる。中高生が、地球の、つまりは自分たちの未来を守るために今、できるベストの方策を考え、実行していく。生徒たちが「自分たちに良い未来を創り出す力があること」を実感する機会としたい。

この会は、「有志の会」であり、大半の生徒は、他の部活や塾などで忙しい中、時間をやりくりしてSDMsの活動を担っている。このことを思うと、メンバーひとりひとりの「より良い世界を作ることへのコミットメント」とそれに向かう行動は、どんなものであれ十分にあたたかく受け止め、生徒たち一人ひとりの思いが実っていくよう、支援し励まし続ける会でありたい。

【SDMs リーダー生徒感想】

今年度は共同代表としてSDMsをまとめていく中で、昭和祭や「おにぎりアクション」を始めとする多くのイベントやプロジェクトに携わってきました。リーダーとして総括しながらも自分のオリジナル性が出せるように工夫が出来たので、学年を問わず様々な学年の方と素晴らしい功績が残せたと自負しています。

まとめていく中でリーダーシップ力や責任感を持ち活動していくのはもちろんのこと、イベントが重なり合ったときの臨機応変な対応も問われることが多々ありました。そこで、計画の重要性と同じプロジェクトの仲間の大切さを学びました。

来年度も引き続き共同代表としての立場を頂いたので、今年度の失敗をバネに、更なるプロジェクトのクオリティ向上と協調性を持ったリーダーとなれるよう精進していきたいと思えます。(高1)

Ⅲ. 春季オンライン SDGs 海外研修

2020 年度よりコロナ禍で、すべての海外研修がストップした。これを補うべく、「オンライン SDGs 海外研修」を 2022 年 3 月春休みの 6 日間、有料で企画した。中 1 から高 2 まで、8 人の高校生と 7 人の中学生が集った。米国オレゴン州ポートランドにある大学付属語学機関 Pacific International Academy と提携して、プログラム内容を共同企画した。

(i) 研修の目的

①SDGs の理解を深める。②英語の発信力を強化する。③地元の SDGs 関係者と話し、実践例から学ぶことで、課題解決のための発想を学ぶ。

生徒の動機としても、「SDGs を英語で学び、持続可能な世界を作ることに参画したい」というものが多かった。

(ii) 研修の特徴と内容

地元で SDGs 推進に取り組む NPO や大学関係者らを招いて、プレゼンテーションや質疑応答から学ぶ側面を重視した。後半 3 日間で 8 人の SDGs 関係者が生徒たちに自分の体験を語った。たとえば、3 日目に登壇したゲストは、NPO「Clean Energy Project」スタッフで、貧困層にクリーンエネルギーの普及や家庭のエネルギー経費の削減法について啓蒙する活動を担っている。生徒には前日にゲストに関する情報が与えられ、ゲストへの質問を考える課題が出される。

今回は、17 の SDGs ゴールの中から、SDGsNo7(クリーンエネルギー)、SDGsNo10(人や国の不平等をなくす)の二つのゴールを選んで、CLIL(内容言語統合)4 技能型で授業は進んだ。課題として英文記事が事前に配布され、予習で質問に対する自分なりの解答を考えておく。翌日の授業では、講師から主要なポイントの短い説明があった後に、小グループでディスカッションが進む。授業中に記事を一緒に読むような活動は一切ない。小グループには、「Cultural Ambassadors」と呼ばれる大学生のファシリテーターがつき、生徒がディスカッションの記録や報告を務める。これらは Google ドキュメントで共有され、全員がいつでも書き込んだり、後から見直すことができる。クラスの課題や動画や関連 URL 等は、すべて「Google クラブルーム」で管理され、分かりやすい構成になっている。

最終日には、希望者 3 人が 4 分以内のパワーポイント・プレゼンテーションを行った。それぞれの内容は、「研修で学んだこと：気候変動問題」、「クリーンエネルギー社会を作る上での課題」、「ジェンダー：ディズニー・プリンセスの時代別の変遷」であった。

今回の参加者は、英検 2 級相当としたが、それ以下の生徒も受け入れた。事前に 2 度の準備セッションを設け、準備を行いやすくした。また、研修期間中も、毎回、オンライン終了後に希望者には 30 分間のサポートセッションを設けることとした。

(iii) 成果と課題

◎成果：意欲の高い生徒たちが春休みを利用して、海外につながる形で SDGs について学ぶ機会となり、目的を果たすことができた。

また、4 月 2 日(土)に 2 時間、「Presentation and Sharing」(オンライン)と称し、上記の有志の生徒 3 人が、各 10 分前後のフル・プレゼンテーションを行い、質問に答えた。隣のブリティッシュ・スクール(BST)からも二人の高校生が参加し、内容に関する英語のやりとりが生まれた。本校の二人のネイティブ教員も含め総計 10 人が集い、英語を使った有意義な交流となった。BST の生徒と英語で内容に関するディスカッションをする力を生徒たちは備えていることが証明された。

◎課題：内容には高度なものもあり、理解が追いつかない生徒たちも複数いたと思われる。今後、同様のオンライン海外研修を行う場合には、さらなる言語的サポートや、内容やレベルの吟味が必要である。特に、ゲストスピーカーの話には、文字情報や写真などがなかったケースが多かったため、より多くのサポートが必要だ。また、SDGs の活動現場を訪ねて動画で紹介してもらう等、生徒がより強いインパクトを得られるように、現実により近い内容を取り入れられれば一層良い。そして、研修を通じて、生徒が行動に変容を起し、課題解決について校外で発信することも目標としていきたい。

